

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 幼児教育 第15号

—幼稚園、小学校対象—

平成23年4月発行

### 幼稚園と小学校との連携の進め方

幼稚園と小学校との連携（以下、幼小連携と記す）の必要性は、従来より周知のことであるが、今回の幼稚園教育要領の改訂においても、「発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実」が大きな柱の一つとなっており、「幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続」が改善の具体的事項として示された。幼稚園教育要領では、第3章第1の中で特に留意する事項として、次のように示されている。

#### 2 特に留意する事項

- (5) 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること。

なお、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続は、幼稚園が一方的に取り組んで実現するものではない。そこで、小学校学習指導要領（平成20年3月告示）総則においても、連携や交流を図ることが示されるとともに、第2章の各教科においては、生活科と国語科、音楽科、図画工作科において幼稚園教育との具体的な接続の在り方が明記された。

この10年余り、本県では、多くの幼稚園や小学校において連携の取組が進められてきた。特に、行事などにおける子ども同士の交流や職員の相互参観などは、多くの園で取り組ま

れてきている。しかし、地域、学校等での取組差が大きく、取組の内容も単なる交流にとどまり、計画的な教育内容の接続に至っていない場合も少なくない現状がある。その理由として、どのように進めていけばよいか分からない、研修の時間確保が難しい、などが挙げられる。

そこで、本稿では、指導資料「幼児教育第13号」（平成19年5月発行）で示した連携の方法や、発達や学びの連続性を考慮した交流の在り方などを踏まえ、更に具体的にどのように進めていけばよいか、事例を交えながら述べることにする。

#### 1 連携の体制づくり

連携を進めるためには、まず、組織・体制を整える必要がある。市町村教育委員会を中心に、保育所担当部局や私立幼稚園担当部局等の関係部局が連携協力し、保幼小連携協議会などを設置して進めているところもあり、この場合、計画的、継続的に実施されやすい。

次に示す表は、A地区の幼小中連携推進教育研究会の年間計画である。平成15年度から幼稚園1園、小学校2校、中学校1校での取組が行われてきている。このように、年間を通した計画があると、限られた中でもきちんと時間確保がなされ、効率的、継続的な運営ができると考える。しかし、協議会に参加す

るだけで連携が図れるわけではなく、幼稚園や小学校は、それぞれ校内に組織を設置し、より具体的な交流等が行われるよう積

極的に連携先の学校にかかわっていく必要がある。

表 幼小中連携推進教育研究会年間計画（平成21年度）

| 月    | 会          | 内 容          | 参 加 者    | 会 場   |
|------|------------|--------------|----------|-------|
| 4 月  | 第 1 回推進委員会 | 第 1 回研究会に向けて | 推進委員     | B 中学校 |
| 5 月  | 第 1 回研究会   | 研究主題・年間計画の確認 | 幼小中学校全職員 | B 中学校 |
| 7 月  | 第 2 回推進委員会 | 第 2 回研究会に向けて | 推進委員     | B 中学校 |
| 8 月  | 第 2 回研究会   | 講師による講話等     | 幼小中学校全職員 | B 中学校 |
| 9 月  | 第 3 回推進委員会 | 情報交換         | 推進委員     | B 中学校 |
| 11 月 | 第 4 回推進委員会 | 第 3 回研究会に向けて | 推進委員     | B 中学校 |
| 1 月  | 第 5 回推進委員会 | 情報交換         | 推進委員     | B 中学校 |
| 1 月  | 第 3 回研究会   | 研究授業等        | 幼小中学校全職員 | C 小学校 |
| 2 月  | 第 6 回推進委員会 | 次年度に向けて      | 推進委員     | B 中学校 |

## 2 連携の進め方の実際

連携には、教職員の交流（相互理解）、カリキュラムの接続、子ども同士の交流の大きく三つがある。その意義や方法については、指導資料「幼児教育第13号」（平成19年5月発行）で述べたので、ここでは、実際の進め方について述べる。

### （1）教職員の交流（相互理解）

教職員の交流には、合同研修・研究、保育・授業参観、意見交換・相互訪問、相互交流（人事交流）などがある。研究テーマに沿った研究会などが連携の中心となるが、合同研修・研究外でも連携できる部分を探り、できるところから積極的に取り入れたいものである。そのためには、事前に十分に協議し、連携の計画を立て、教育課程の中に、きちんと位置付けるようにすることが大切である。

図1は、いちき串木野市立市来幼稚園で取り組んでいる幼小中連携の年間計画一覧である。

市来幼稚園では、図1のように、幼小中で行う推進委員会や研究会の他に、衛生推進委員会（※1）や、職員交流そうめん流し（※2）、職員研修（※3）など、積

| 月  | 小学校                                  | 幼稚園 | 中学校 | その他                                                                                   |
|----|--------------------------------------|-----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 4  | 幼小中連携教育推進委員会（各校・園代表者）                |     |     |                                                                                       |
|    | 幼小中連携教育全体研修会（各校・園全職員）<br>・年間計画確認・分科会 |     |     |                                                                                       |
| 5  | サツマイモの苗植え交流（年長・小2）                   |     |     |    |
| 6  | 芋畑の草取り交流（年長・小2）                      |     |     |                                                                                       |
|    |                                      |     |     | 中学生職場体験学習（全園児・中3）                                                                     |
| 7  | 幼小中連携教育推進委員会（各校・園代表者）                |     |     |                                                                                       |
|    | プール遊び交流（年長・小1）                       |     |     |                                                                                       |
|    | 衛生推進委員会（小・園職員）                       |     |     | ※1                                                                                    |
| 8  | 職員交流そうめん流し（小・園全職員）                   |     |     | ※2                                                                                    |
|    | 幼小中連携教育全体研修会（各校・園全職員）<br>・講演会・分科会    |     |     |                                                                                       |
|    | 職員研修（小・幼全職員）                         |     |     | ※3                                                                                    |
| 9  |                                      |     |     | 敬老の日ふれあい活動（全園児・高齢者）<br>ともだちひろば（全園児・未就園児）<br>農高見学（全園児・農芸高校3年）                          |
|    | 幼小中連携教育推進委員会（各校・園代表者）                |     |     |                                                                                       |
| 10 | 小学校運動会種目への参加（年長）                     |     |     |                                                                                       |
|    | いもほり交流（年長・小2）                        |     |     |  |
|    | 幼小中連携教育推進委員会（各校・園代表者）                |     |     |                                                                                       |
|    |                                      |     |     | ともだちひろば（全園児・未就園児）                                                                     |
| 11 | やきいも交流（年中・年長・小1・2）                   |     |     |                                                                                       |
|    | 幼小中連携教育全体研修会（各校・園全職員）<br>・授業研究       |     |     |                                                                                       |
|    |                                      |     |     | 高校生保育体験（全園児・農芸高校3年）                                                                   |
| 12 | 絵本の読み聞かせ交流（全園児・小1）                   |     |     |                                                                                       |
| 1  | 幼小中連携教育推進委員会（各校・園代表者）                |     |     |                                                                                       |
|    | 小学校1日入学（年長・小1）                       |     |     |                                                                                       |
| 2  | 幼小中連携教育推進委員会（各校・園代表者）                |     |     |                                                                                       |
|    | 小学校“〇〇フェスティバル”（全園児・小1～6）             |     |     |  |
| 3  | 小学校授業参観（年長・小1）                       |     |     |                                                                                       |
|    |                                      |     |     | 中学生保育体験（全園児・中3）                                                                       |

※ 中・高の保育体験は、要請がある年度のみ実施

図1 幼小中連携の年間計画一覧

極的に小学校の職員との交流を図っている。具体的には、年間計画に従って、校務分掌上の担当者同士が計画案を基に打合せを行い、調整を図った上で、全職員で共通理解を図り、実施されている。

## (2) カリキュラムの接続

カリキュラムの接続とは、教育内容や指導計画を、発達や学びの連続性を踏まえたものにし、幼児教育での生活体験や学びが、小学校での生活や学習に円滑に接続できるようにすることである。今回の幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の改訂では、より具体的な接続の在り方が明記された。また、接続期である幼稚園の年長児後半の指導計画（アプローチプログラム）や小学校第1学年の初めの指導計画（スタートカリキュラム）作成についての研究や取組も進んできている。

カリキュラムの接続の視点としては、次の視点が大切である。

### <カリキュラム接続の視点>

・園の指導計画やねらいと、生活科や低学年の指導計画とどのようにかかわっていくか。また、中・高学年の指導計画とどのようにかかわっていくか。

まずは、互いのねらいや指導計画を知り、比較するところから始めなければならない。

また、これまで取り組んできている交流活動においても、改めて接続という視点で、何がどのようにかかわっていくのか明らかにし、改善を図っていくようにする。

日置市立鶴丸小学校（保育所と幼稚園と連携）では、早くから保幼小連携の取組が行われ、計画的に実践が積み重ねられている。連携する3施設では、交流活動において、次に示すような教育内容の接続の視点（3施設では実際に交流する際の交流の視点と

している。）を設定して計画・実践を行っている。

### <交流の視点>

#### 視点1 基本的生活習慣の育成

- 1-① 片付け、整理整頓
- 1-② あいさつ
- 1-③ 掃除の仕方
- 1-④ 衣服や服の着脱と整理
- 1-⑤ 話を聞く態度
- 1-⑥ 食事のマナー、好き嫌い
- 1-⑦ 歯磨きやうがい・手洗い
- 1-⑧ 物の大切さ

#### 視点2 社会性の育成

- 2-① 遊びの誘い方、仲間の入り方
- 2-② 順番やきまりの理解
- 2-③ 謝罪の仕方
- 2-④ 小動物や植物への関心のもち方
- 2-⑤ 人への思いやり
- 2-⑥ 言葉遣い

3施設では、発達や学びの連続性を考慮し、大きく基本的生活習慣と社会性の育成の二つのカテゴリーに分け、更に細分化した視点を設けている。これらの視点を、交流活動に位置付けることによって、より具体的に発達や学びの連続性を意識した指導がなされている。

なお、教育内容の接続の視点は上記の二つに限るものではない。幼稚園や保育所において、幼児の発達の側面から構成される5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を視点として小学校とのつながりを考えることもできる。例えば、小学校学習指導要領の音楽科や図画工作科で「特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。」と示されたが、このことを考慮すると、「表現」のカテゴリーで、「身体表現」、「歌・リズム」、「かく・つくる」、「工夫して遊ぶ」などをキーワードとした視点も考えられる。いずれにせよ、教育や保育のねらいや内容、幼児・児童の実態を踏まえ、十分に共通理解を図っていくことが求められる。

### (3) 子ども同士の交流

ここでは(2)で取り上げた日置市立鶴丸小学校と、連携する幼稚園との交流活

動の一部(第2学年音楽科における園児との交流活動)を、指導計画を基に示すことにする。

|                                            |                                                     |                               |        |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------|--------|
| 学年教科                                       | 2年 音楽科                                              | 交流相手                          | 東市来幼稚園 |
| 題材名                                        | リズムにのってあそぼう(4時間)                                    | 交流場所                          | 多目的ホール |
| ねらい                                        | 拍の流れによってリズムを感じ取ったり、表現をしたりする活動をととして、互いの交流を深めることができる。 |                               |        |
| 児童の活動                                      |                                                     | 幼児の活動                         |        |
| 1 おはら節を踊る練習をする。                            | ⇄                                                   | 1 小学生と一緒に踊りの練習をする。            | ⇄      |
| 2 おはら節の中にリズムフレーズをいれて練習する。                  |                                                     | 2 グループにわかれて小学生と練習する。          |        |
| 3 おはら節をいれて練習する。                            |                                                     | 3 おはら節の踊りの練習をする。              |        |
| 4 発表する。                                    |                                                     | 4 発表する。                       |        |
| ※ 視点 1-① 1-② 1-⑤<br>2-⑤ 2-⑥                |                                                     |                               |        |
| 備考<br>打合せ事項<br>・日程 ・グループの組み合わせ<br>・踊りの練習 等 |                                                     | 準備<br>・はっぴ<br>・CD<br>・お片付けのうた |        |

図2 指導計画(一単位時間の流れ)

| 時  | 児童の主な学習活動                                                    | 幼児の主な学習活動                                     |
|----|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 9  | 「リズムあそび」<br>○ おはら節の雰囲気を感じ取り、リズムパターンを言葉で表したり、手拍子で打ったりする。      | ○ おはら節の雰囲気をDVDを見て感じ取る。<br>○ 2年生と一緒に交流することを知る。 |
| 10 | リズムパターンをグループごとに自由に組み合わせ、フレーズを作る。                             | ○ 園児のおはら節を踊る練習をする。                            |
| 11 | おはら節を踊る練習をする。                                                | ○ 小学生と一緒に踊りの練習をする。                            |
| 12 | ※ 視点 1-① 1-② 1-⑤ 2-⑤ 2-⑥<br>○ おはら節の中に、グループのリズムフレーズを入れて練習をする。 | ○ グループにわかれて小学生と一緒に練習する。                       |
| 13 | ※ 視点 1-① 2-① 2-⑤<br>○ リズムフレーズを入れたおはら節を全員で練習する。               | ○ 小学生と一緒におはら節の踊りを練習する。                        |
| 14 | ※ 視点 1-① 2-① 2-⑤<br>○ 初小全員で発表する。                             | ○ 小学生と一緒に発表する。                                |
| 15 | 「ピタパットのうた」<br>○ 拍の流れによって、身体表現しながら歌う。                         |                                               |

図3 指導案 題材の指導計画

- (1) 目標  
ア おはら節にあわせて、拍の流れによってリズムフレーズをリレーしたり、身体表現したりすることができる。(小)  
イ おはら節にあわせて、楽しく身体表現することができる。(幼)  
ウ おはら節にあわせて、リズムフレーズをリレーしたり、身体表現する活動をととして、相互にコミュニケーションをとったり、協力し合ったりすることで交流を深めることができる。(交流)
- (2) 実 施

| 園児に対する支援                                                                                               | 時          | 予想される子どもの活動                                                                                                    | 児童に対する支援                                                                          | 環境構成と準備                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| ・ 事前にはっぴをきて準備する。<br>・ 指導びや絵本を一緒に楽しむ。集中して聞けるように支援する。<br>・ 活動の流れが把握できるように聞かせる。また、小学生と一緒に準備ができるように声かけをする。 | つかむ・見通す 10 | 1 本時の学習の流れを知る。<br>・ 指導びをしたり、絵本を読んでもらったりする。<br>・ 本時の流れを知り、準備をする。<br>※ 視点 1-② 1-⑤ 2-②<br>おはら節のリズムにあわせて、たのしくおどろう。 | ・ 本時の学習に期待感をもてるように、指導びや絵本を聞いて落ち着いて学習が始められるようにする。<br>・ めあてや学習の順序をしっかりと確認し、意欲をもたせる。 | ・ 指導びと絵本の準備<br>・ 場の設定<br>多目的ホール<br>黒板<br>(おはら節発表場所)<br>(グループ発表) |

図4 指導案 本時

図2について 保幼小連携年間指導計画より抜粋した第2学年の一単位時間の指導計画である。共通の交流のねらいと児童・園児のそれぞれの活動が示され、(2)で述べた交流の視点が明記されている。交流活動のねらいと流れをとらえ、発達や学びの連続性を意識した指導の手だてを考えることができる。

図3・4について 指導計画を基に作成された「第2学年音楽科指導案(幼小連携)」の抜粋である。図3の題材の指導計画は、題材を通した園児の活動、交流の視点が示され、音楽科の授業での題材を通した園児とのかかわりが見通せる。図4の本時は、児童・園児への支援や環境構成が示され、教師の互いの役割や、支援を見通すことができ、具体的なかかわりなどに生かすことができる。

鶴丸小学校は、保幼小連携における交流活動を全学年で行っている。接続期である低学年はもちろん重要だが、学校及び園全体で連携を図っていく意識や体制が必要である。

今後、更に職員同士の交流、子ども同士の交流を進める中で、カリキュラムの接続という視点で、互いの教育課程及び指導計画の改善を進め、連携がより充実したものとなることを期待したい。

#### 一参考文献一

NPO日本標準教育研究所編集 『今すぐできる 保・幼・小連携ハンドブック』(平成21年4月)  
(教職研修課)